

日高新報の記事です。

美浜の特養に元入所者の家族がケア浴槽贈る

2011年8月14日

施設の皆さんに喜んでもらえればと、美浜町三尾、特別養護老人ホームときわ寮（小松敬二施設長）に元入所者の家族からケア浴槽が贈られた。同施設には一般浴槽と寝たきりの人らのための機械浴施設があるが、補助がなくても安全、快適に入れるケア浴槽は以前から欲しかった待望の設備。すでに利用を開始しており、「とても入りやすく気持ちがいい」と好評だという。



「皆さんに喜んでもらえれば」と典子さん

ケア浴槽を贈ったのは、昭和63年4月から同施設に入所し、昨年9月、96歳で亡くなった同町吉原の津村静さんの家族。静さんが22年以上もお世話になつた感謝を込め、大切な友人や職員と支え合つて生きた証しを残したいと、手すりやスライドする昇降シートなどがついたケア浴槽をプレゼントした。浴槽は9日に納入され、12日には門真市に住む静さんの弟の津村正直さん（93）＝吉原＝の二女典子さん（60）が施設を訪れ、小松施設長に目録を贈呈。施設を管理運営する御坊日高老人福祉施設事務組合の増田秀穂事務局長から、小谷芳正組合管理者（みなべ町長）の感謝状が手渡された。

寝たきりの人など重度の要介護者が多い特別養護老人ホームにとって、ケア浴槽は一般浴と機械浴の間の風呂として以前から欲しかった設備。自力歩行が多少困難でも、座位を保てる人であれば1人で入ることができ、一般浴と機械浴とは別にこれまで使ってきた簡易型浴槽に比べると補助の手も少なくなり、より安全で快適に入浴できるという。

小松施設長は「うちはショートステイの利用も多く、これまでお風呂に入つてもらえる回数も限られていましたが、このケア浴槽をいただいたおかげで入浴できる回数も増えます」と感謝。典子さんも「（施設への寄贈は）父の意向でもあり、そのようにいっていただければ、亡きおばも喜んでいることと思います。お風呂は毎日のことですし、食事、睡眠と合わせて生活の中で一番大事なもの。施設の皆さんには、夏も温かいお風呂にゆっくりつかってほしいですね」と話していた。